

第19期業績のご報告

(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

平成27年 9月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度のわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がありましたが、その後穏やかな回復を続けております。また、企業収益の改善から設備投資も穏やかな増加基調にあり、個人消費も雇用・所得環境の改善の元、底堅く推移し、足元においても穏やかながら回復基調を辿っております。

駐車場業界におきましては、上半期末まで続いたガソリン高の影響による自動車の乗り控え、消費税増税後の消費回復の遅れの影響など、厳しい事業環境が継続しました。

このような環境のもと、当社は主力事業でありますコインパーキング事業におきまして、引き続き新規駐車場の開設と、駐車場機器の販売及びメンテナンスに注力致しました。また、顧客基盤の拡大に向け、横浜支店の開設及び町田へ支店の移転を行いました。

以上の結果、売上高は5,704,003千円(前期比91.9%)、営業利益は210,313千円(前期比72.9%)、経常利益は131,434千円(前期比81.2%)、当期純利益は27,888千円(前期比84.5%)となりました。

事業区分別の業績は以下の通りです。

【コインパーキング(以下CP)システム運営事業】

CPシステム運営事業におきましては、自動車の乗り控えによる駐車場需要の低下による影響を最小限にすべく、駐車場の新規開発及び駐車場の需給バランスを考慮した料金設定の最適化を継続的に実施し、駐車場の採算性の向上に努めて参りました。また、駐車場の付加価値向上を図るべく「電気化と電子化」をコンセプトに電気自動車の充電設備及び電子マネー対応現場の拡大に注力致しました。その結果、売上高2,707,715千円(前期比103.6%)となりました。

【CPシステム販売管理事業】

機器販売事業におきましては、外部環境の影響による顧客先既存駐車場の収益悪化により、開発計画が遅れる結果となりました。また、メンテナンス売上におきましても、開発計画の遅れの影響を受ける結果となりました。その結果、売上高2,616,796千円(前期比94.6%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

キャッシュフロー経営を重視し、収益性の低い物件を売却致しました。また、その他の物件については「満室経営」を目指し、物件の稼働率の向上に注力致しました。その結果、売上高379,311千円(前期比138.7%)となりました。

事業別の売上高は次の通りであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
CPシステム運営事業	2,707,715千円	2,612,473千円	103.6%
CPシステム販売管理事業	2,616,796千円	2,765,211千円	94.6%
プロパティマネジメント事業	379,311千円	273,311千円	138.7%
分譲マンション事業	0千円	551,060千円	0%
その他	180千円	203千円	88.9%
合計	5,704,003千円	6,202,260千円	91.9%
